本市の特色を生かした活力あるまちづくりを

創秦クラブ　谷　和雄

一　地域医療の充実・強化について

問　秦野赤十字病院の分娩再開に向け、小児科の充実にも取り組むべきと考えるがどうか。

答　秦野赤十字病院が示すハイリスク妊娠に対応する周産期母子医療体制の整備に向け、本市の方向性を検討する。

二　超高齢社会に向けた取り組みについて

問　超高齢社会に突入する中で、健康長寿社会の実現が必要と考えるがどうか。

答　健康長寿社会やみんなで支え合う社会の実現を基本とした高齢者施策を展開していく。

三　新東名高速道路と246バイパスの建設を踏まえた秦野西部域のまちづくりについて

問　新東名高速道路（仮称）秦野インターチェンジが位置する上地区は国道246号バイパスの基点でもある。また、（仮称）渋沢インターチェンジも計画される西部域のまちづくりへの考えはどうか。

答　西部域は将来、広域交通ネットワークの玄関口となるので、頭高山や上地区の里山など、地域資源を生かした取り組みを進める。

要望　（仮称）秦野インターチェンジへの円滑なアクセスのため、必要な道路整備を進めてほしい。

四　中学校給食の完全実施について

問　実現に向けた決意と、現時点での提供方式の考えはどうか。

答　市内小学校のような自校方式が理想だが、将来の負担も考え、不退転の決意で実現に取り組む。

五　教育水準の改善・向上及びICTを活用した教育の推進について

問　タブレットを活用したICT教育を上小学校に導入したが、学力向上への取り組みはどうか。

答　行政には学力を向上させる責任があり、教育環境整備のため、平成30年度までに、すべての中学校へICT機器を導入する。

新たな秦野の玄関口となる西部域のまちづくりを
（写真は（仮称）秦野IC料金所付近工事現場）

子どもたちやお年寄りにやさしいまちづくりを

緑水クラブ　高橋　文雄

一　秦野赤十字病院の周産期医療再開について

問　秦野赤十字病院の分娩業務再開に対し、全市を挙げて取り組んできたが、①再開の見通しは、②産科医確保の計画は、どのようか。

答　①市民病院的な病院として、分娩業務再開は不可欠と考えている。秦野赤十字病院は、グランドデザインを策定し、県・市と連携して早期再開を目指すことを重点施策として位置付けている。②周産期医療の在り方を研究し、関係者と協議しながら検討していく。

意見　早期再開のため、財政的支出、支援を考えるべきである。

二　子どもの貧困対策について

問　格差社会と言われる中、貧困問題は立場の弱い子どもに顕著に現れていると言われるが、①庁内横断組織による取り組みは、②実態調査は、どのようか。

答　①貧困対策、子育て、福祉、教育など分野が多岐にわたるため、連絡会を設置し、情報共有や施策の検討などを進め、対策に当たっていく。②子どもの置かれている状況を的確に捉えるため今後調査し、ニーズに合った対策を進める。

三　認知症施策の推進について

問　高齢者の4人に1人は認知症かその予備軍と言われ、大きな社会問題である。①認知症患者の現況は、②認知症サポーターの養成に向けた取り組みは、どのようか。

答　①平成28年度末の要介護認定者の約6割に当たる約3600人が認知症であり、潜在的な人数を含めるとさらに多くなる。本市で行方不明になった高齢者の防災行政無線による捜索件数は28年度で20件、30年3月2日時点で13件である。②認知症サポーターは患者や家族を暖かく見守る応援者である。29年度末に8300人となる予定で、30年度中には1万人を目指す。さらに警察や金融機関など幅広い分野から協力を得て、認知症にやさしいまちづくりを目指す。

ほか10項目にわたり質問をした。

認知症サポーターのさらなる養成を
（写真は認知症サポーター養成講座の様子）

市長は日本政府に対して核兵器禁止条約に署名、批准せよと発信すべきである

日本共産党　露木　順三

一　市長の政治姿勢について

問　安倍政権の社会保障費削減にストップをかけ、軍事費などの無駄を削り、大企業や富裕層に応分の負担を求め、必要な財源を確保し、市民の暮らしを支える政治を行うことが求められているが、高橋市長の考えはどのようか。

答　行政の役割は、課題がある中で市民が期待する政策について糸を解きほぐすように検討を重ね、具体化させることで、市民の豊かな生活を実現させることである。

二　平和への取り組みについて

問　日本政府に対して核兵器禁止条約に署名し、批准せよと発信すべきであり、また、核兵器廃絶に向けて設立された国際組織、平和首長会議に参加すべきであるが、高橋市長の考えはどのようか。

答　核兵器禁止条約に署名し、批准することは国政の判断であるため発言できない。平和を希求する本市の姿勢を示すため、平和首長会議の一員として事業に取り組む。

三　総合計画後期基本計画について

問　中学校給食の完全実施は、生徒の健康増進や体力向上を図るとともに学校における食育の一環として早期実現を目指すと市長の施政方針にあるが、早期実現に向け実施計画の策定はどのようか。

答　保護者などの外部委員と学校関係者の推進会議から意見を聞きながら、課題の解決策の検討や経費の試算などを行い、その結果に基づき基本方針案、基本計画案を策定し、任期中を前提に給食が提供できるよう進めていく。

平和に向けた取り組みの発信を
（写真は秦野市平和祈念公園）

議案審議

児童館機能を備えた開放型自治会館の整備へ

議案第14号　秦野市立児童館条例の一部を改正することについて

▼要　旨

児童館機能を有する開放型自治会館の建設を予定している千村地区自治会連合会に対し、千村児童館の土地を返還するに当たり、「公の施設」としての位置付けを廃止するもの。

▼付託委員会

文教福祉常任委員会

▼委員会での主な質疑・要望

問　新たに建設される開放型自治会館での児童館機能はどのようか。

答　現在の千村児童館の約1・3倍となる99・35平方メートルのスペースを借用して、児童館機能の継続を図る。

要望　児童館はスペースだけでなく、活動内容が重要であり、子育て支援施策においては、本来、機能的な部分を含めて拡充すべき施設と考える。また、以前は地域における役割も非常に大きかった児童館厚生員のスキルアップにも努めてほしい。

要望　公共施設再配置計画に基づき、縦割り的に進めるのではなく、地域コミュニティーを形成するためのサロン整備などを含め、横断的な検討を進めてほしい。

▼本会議での賛成討論

公共施設集約の観点から、児童館全体の整理についても検討すべきと要望し、賛成する。

▼採決の結果

委員会　原案可決（賛成全員）
本会議　原案可決（賛成多数）

開放型自治会館に集約される
千村児童館

議会の動向

○2月
19日（月）・議案送付
22日（木）・議会運営委員会
26日（月）・市議会第1回定例会開会【傍聴者数45人】

○3月
1日（木）・本会議（代表質問）【傍聴者数25人】
・代表者会議
2日（金）・本会議（代表質問）【傍聴者数36人】
・議会運営委員会
・追加議案送付
5日（月）・本会議（議案審議）【傍聴者数1人】
・代表者会議
6日（火）・予算決算常任委員会（総務分科会）
7日（水）・予算決算常任委員会（文教福祉分科会）
8日（木）・予算決算常任委員会（環境都市分科会）
12日（月）・議会運営委員会
・総務常任委員会【傍聴者数7人】
13日（火）・文教福祉常任委員会【傍聴者数4人】
・予算決算常任委員会（文教福祉分科会）
14日（水）・環境都市常任委員会
19日（月）・本会議（一般質問）【傍聴者数34人】
・代表者会議
22日（木）・本会議（一般質問）【傍聴者数17人】
・代表者会議
・追加議案送付
26日（月）・追加議案送付
27日（火）・議会運営委員会
・予算決算常任委員会【傍聴者数1人】
・市議会第1回定例会閉会【傍聴者数4人】
・議会運営委員会
・議会報編集委員会
29日（木）・秦野市伊勢原市環境衛生組合議会
第1回定例会

○4月
16日（月）・代表者会議
・議員連絡会

○5月
2日（水）・議会報編集委員会

会議録の検索・閲覧

本会議における一般質問、議案審議をはじめ、常任委員会などの会議録を検索・閲覧することができます。
（平成30年第1回定例会の会議録は、5月下旬からご覧いただけます。）

こちらからアクセス

市議会ホームページをご覧ください!!

本会議の中継、会議の結果、会期日程など議会に関する各種情報を掲載しています。

こちらからアクセス